



第85回

日本皮膚科学会東京支部学術大会

モーニングセミナー4

85th JDA Tokyo, 2021

難治性皮膚疾患治療の次の一手 ～光線療法の使いどころを考える～

日時

2021年11月14日(日) 8:00-9:00

会場

第5会場

京王プラザホテル新宿 4F 花 A

※現地開催とLive配信によるハイブリッド開催

座長

森田 明理 先生

名古屋市立大学 大学院医学研究科
加齢・環境皮膚科学 教授

MS 4-1 : 白斑を治療する～光線治療とその併用療法を考える～

渡部 晶子 先生

(けまない皮膚科クリニック、東北大学)

MS 4-2 : TARNABを軸にしたコンビネーション光線療法

日野 亮介 先生

(日野皮フ科医院)

【当日の Live 配信について】

日程表と同日・同時刻に講演内容が配信されます。

「第 85 回日本皮膚科学会東京支部学術大会」のホームページから Live 配信のバナーをクリックすると聴講ページにお進みいただけます。

※詳細は、下記大会ホームページからご確認お願いいたします。

<https://jdatokyo85.jp/>

モーニングセミナー4

難治性皮膚疾患治療の次の一手 ～光線療法の使いどころを考える～

MS4-

白斑を治療する～光線治療とその併用療法を考える～

1

渡部 晶子 先生

けまない皮膚科クリニック、東北大学

白斑は、既存の治療に抵抗性を示すことが多い難治性疾患である。小児期から老年期まで年令を問わず出現し、罹患部位も様々で、分布もそれぞれ異なるため治療をする際にはそれらを考慮して個別に治療法を選択することになる。現在、白斑治療の選択肢として、ステロイドやビタミンD3、タクロリムスなどの外用療法、NB-UVBやエキシマライトなどの光線療法、ステロイドの全身投与や手術療法などがある。しかし、これらの治療法がどのような症例にどの程度有効かについては不明な点も多く、世界的に統一された基準もないため、手探りで治療をすすめるを得ないのが現状である。治療法の中で光線療法の有効性は広く認識されており、白斑治療においては中心的役割を担っているともいえるが、効果がみられないもしくは限定的な症例もあるため、すべての症例に効果が期待できるわけではない。今回、主に光線治療について期待される効果や限界、併用療法の有効性などについて我々が経験した症例を供覧するとともに、日本や欧米のガイドラインを含めた文献的検討を加え、難治な症例に対する次の一手となり得る治療の選択肢について考察したい。

MS4-

TARNABを軸にしたコンビネーション光線療法

2

日野 亮介 先生

日野皮フ科医院

乾癬、アトピー性皮膚炎、白斑、円形脱毛症など、光線療法を行う際、当てにくい部位や治りにくい部位で困ることも多い。立位での全身照射を行う際には、光線が当たりにくい足底や手掌、頭部は追加照射が必要になるケースも多い。一般的に、光線療法の効果を高めるためには照射量を上げることが最も分かりやすい手段である。しかし、いたずらに照射量を上げるだけでは、治療効果と紅斑やヒリつきなどの副作用とのトレードオフになってしまう懸念もある。その点、TARNABは既存の照射装置に比べて、小型のハンディタイプという特徴から照射できる部位に制限が少なく、かつ高出力で近接照射ができる。そのため短時間で様々な部位に手軽に照射できるという大きなメリットがある。もう一つ気づかれない利点としては、紅斑の出現、色素沈着などの副作用が比較的少ないことを強調したい。これらの利点を生かし、当院ではTARNABを用いて既存治療で難治な部位への「追加照射」を積極的に行っている。本講演ではその内容の一端を紹介したい。